

みんなの願いは窓口無料 すすめる会ニュース 17-4号

2017年3月9日（木）

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

<http://www.medical-post.net/fukushi/>

（長野市高田中村276-8：長野県社保協内）

3/9 県議会健康福祉委員会で請願の意見陳述



開会中の県議会に「すすめる会」が提出した「子ども・障がい者等の医療費の窓口完全無料化を一刻も早い実現を求める」請願が3月9日午後県民文化健康福祉委員会で審査され、「すすめる会」湯浅事務局長が意見陳述（写真：左）を行いました。

湯浅事務局長がおこなった意見陳述（全文別紙）では、昨年末の阿部知事の「子ども医療費の現物給付化検討」の記者会見を歓迎し、県が主導して、一刻も早い実現を訴えつつ、請願の趣旨説明を行いました。その中で、請願項目に従って、第一に、今回の県知事の見直し発言を期に、福祉給付制度全体を拡充する観点から「所得制限なし、受益者負担金なし」の窓口完全無料制度の実現を切実な当事者の声を紹介しながら、訴えました。

二点目は、当事者の意見や要望を直接行政に反映させる機会の保障の重要性を述べました。当事者と家族に直接影響する事柄を当事者や家族抜きで決めることは、人権保障としての社会保諸制度の基本に係わる事項であり、行政担当者の見識に係わる内容であり、是非当事者参加を保障して欲しいと訴えました。

陳述のあと、日本共産党の高村議員から「医療関係者からの反応はどうか」「市町村議会の意見書採択の状況はどうか」の質問がありました。湯浅事務局長は、現在展開中の県知事への要請署名運動における医療関係団体の反応状況や市町村議会からは、7割を超える意見書が挙がっていると答えました。尚、請願は10日委員会最終日で採択の予定です。（結果は次号）



県知事要請署名～賛同者・協力者の輪広がる！

<署名用紙の追加依頼の団体からの返送状況>

松本市の公立保育園、上田市の私立保育園からそれぞれ40筆分、佐久市の民間病院から125筆分、飯田市の歯科医院から32筆分 など

<署名の追加依頼の状況>

3/9 現在賛同団体数 65 団体（非公表含む）

飯田市の民間病院から10枚、飯田市の民間保育園から15枚、下伊那の公立保育園から30枚、上水内郡の公立保育園保護者から32枚、松本市の民間保育園から110枚、一人親当事者団体から100枚、飯田市の小児科医院から20枚、千曲市の小児科医院から50枚、長野市の児童センターから10枚、諏訪郡の公立保育園保護者会から40枚、北安の自治体労働組合から10枚、下高井の自治体労働組合から40枚、医療系の職能団体から50枚、県関係の病院労働組合から30枚、飯田市の民間保育園保護者会から45枚、安曇野関係の公立保育園から260枚、安曇野関係の医療団体から120枚、下伊那の自治体労働組合から20枚、木曾地方の自治体労働組合から25枚、県段階の医療系職能団体から40枚、上伊那の公立保育園保護者会から25枚など・すでに1544枚の追加分を送付済。

私たちは訴えます！ “医療費を一刻も早く窓口完全無料化に” 当事者のつどい を成功させましょう！

開催日時：2017年3月26日（日）13:30～16:00頃

開催場所：長野市・高校教育会館別館2階大ホール